

2022年12月実績概要（メモ）

（2023. 1. 26）

エチレンのほか、各誘導品における需要低迷から、稼働率が低下し、近年では低レベルの生産となる。

1. 生産動向

イ) エチレン 482,100トン

前月比 + 2.4% (+11,400トン)
前年同月比 ▲16.4% (▲94,600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3%	-
定修要因等	-	-
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 0.9%	▲ 16.4%
生産増減率	+ 2.4%	▲ 16.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月82.2% → 当月81.4% ← 前年同月97.4%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

2022年（暦年）生産量 5,412.0千トン 前年比 ▲15%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加や定修規模差等から LDPE、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EG、SBR、ベンゼン、キシレンなどの10品目がプラス。HDPE、PS、EO、AN、BRなどの7品目は稼働率要因等からマイナスとなった。

前年比は、稼働率要因を主因に LDPE、HDPE、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの17品目がマイナス。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数増加と定修系列がなくなった LDPE、PP はプラス。HDPE、PS は主に稼働率要因からマイナスとなった。

前年比は、HDPE、PS で若干の定修規模差があったが、4樹脂ともに主として稼働率要因からマイナスとなり、減少率もやや大きくなった。

ロ) 国内出荷

企業物価の上昇が時間差で消費物価の上昇圧力となっており、消費面での節約志向の高まりが続く。また、国内の生産活動においても引き続き、回復基調にある中、直近では一部で弱い動きも見られている。

樹脂の出荷は、前月比は、年末休暇影響もあり、LDPE、HDPE、PP、PS ともにマイナスとなった。

前年比では、4樹脂とも二桁台マイナスとなり、LDPE、HDPE、PP では12月単月の出荷量として、直近10年間でみても極めて低レベルの出荷となった。

分野別の動向でみても、個人消費用包材、産業分野向けとも出荷減少が見られており、LDPE はフィルム分野、HDPE は中空成形分野、射出成形分野、PP は射出成形分野の減少が目立ったほか、PS では包装材、雑貨・産業分野の減少が大きかった。

ハ) 輸出

前月比は、アジア域内の需要は低迷を続けており、中国の新型コロナウイルスの感染爆発による混乱もあり、工業生産、最終需要ともに落ち込んでいる。当月は、前月の輸出がやや低めであった LDPE、HDPE は、前月比プラス。PS はマイナスとなった。前年比は、LDPE、HDPE はプラスだが、PP、PS はマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して LDPE、PP は増加、HDPE、PS は減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PP で上昇、HDPE、PS は低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS ともに高めの水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LDPE	+ 12,200	3.6	3.7
HDPE	▲ 3,800	4.4	4.2
P P	+ 8,700	3.3	3.5
P S	▲ 4,700	2.5	2.2